

釧路川 流域委員会

NEWS
No. 5

第5回委員会を
平成15年10月15日に
開催しました。

釧路川
流域委員会
とは？

北海道開発局及び北海道では、今後概ね20～30年間の具体的な河川整備の内容を示す「釧路川水系河川整備計画」を策定します。このため、地域住民、学識経験者等から意見をいただくことを目的として「釧路川流域委員会」を設置しました。



▲第5回釧路川流域委員会の様子



▲ヘリコプターによる現地視察の様子

平成15年10月15日(水)、釧路地方合同庁舎において「第5回釧路川流域委員会」が開催されました。委員会に先立ち、10月8日(水)にはヘリコプターに乗って上空から釧路川流域の現地視察を行いました。委員会では、釧路川流域の整備方針(グランドデザイン)についての議論等がなされました。

● 釧路川流域の未来の川づくり(グランドデザイン) ●

釧路川流域委員会では釧路川水系河川整備計画を策定していくために、釧路川流域が目指すべき長期の未来像について議論を進めてきましたが、流域の現況や課題の整理、地域住民の意見等を踏まえ、次の基本的な方向性にそった未来の川づくりを進めていくことを提案します。

【基本的な方向性】

1 生命ある川づくり

- イトウやタンチョウが生息する自然環境を保全・再生するなど、生命ある川とし、次世代に継承していきます。

釧路川流域の最上流部と湿原及びその周辺の緑地は生態系上特に重要で、国立公園やラムサール条約登録湿地となっており、イトウやオジロワシ、タンチョウ等が生息しています。このかけがえのない自然環境を生態系に十分配慮しながら保全・再生するなど、生命ある川とし、次世代に継承していきます。

2 暮らしと自然との共生

- 人々の生活や産業活動と自然との共生を図りながら、森林や湿原等、地域の共有財産を保全・継承し、地域社会の安定的な発展を目指します。

流域の森林や釧路湿原は、多様な生態系を育むと共に流水の安定に大きな役割を果たしています。釧路川流域は漁業や酪農が基幹産業となっており、流域の発展に大きく貢献していますが、一方では産業活動に伴う河川水への影響が懸念されるとともに、洪水や多発する地震等の自然災害に対しては、安全な生活基盤が求められています。また、釧路川流域の自然環境の美しさ、魅力を求めて訪れる人々との共生も大切な課題です。このため、人々の生活や産業活動と自然との共生を図りながら、美しく豊かな森林や湿原等の地域共有財産を保全・継承し、地域社会の安定的な発展を目指します。

3 流域が一体となった川づくり

- 流域の個性、多様性を活かしていくために、流域が一体となった川づくりを目指します。

上流域の阿寒国立公園の原生林、屈斜路湖とそれを源流とする釧路川、下流域に広がる釧路湿原は北海道の美しさや雄大さを代表する優れた資源であり、さらに道東の中核的な都市機能を担う近代的な都市地域から物流拠点としての港湾にいたる釧路川流域全体には、様々な自然の活動、人々の生活、経済の営みが展開されています。今後の川づくりにおいては、これら流域内の個性、多様性を活かしていくために、必ずしも従来の仕組みや枠組みにとらわれない、流域が一体となった川づくりを目指していくことが必要です。

◆第5回釧路川流域委員会 審議要旨◆

■今後のスケジュールについて

●グランドデザインの検討は第5回流域委員会でまとめあげて、第6回からは河川整備計画の策定に向けた、川づくりのあり方について議論していきたい。なお、河川整備基本方針の決定は、H16年度の早い時期を予定している。

■グループインタビューの実施について

●地域の声を河川行政に反映させるためにグループインタビュー調査を行い、住民が流域に対してどのような意識を持っているかを少し掘り下げて把握する試みを行った。その結果、業種により意識の類型が見られる傾向にあったが、これらの意見を反映させてグランドデザイン案をとりまとめた。

■グランドデザインについて

- グランドデザインには地域資源評価の位置付けや基本的な方向性が判りやすくとりまとめられている。
- 3つの柱の中に「必ずしも従来の仕組みや枠組みにとらわれない、流域が一体となった川づくり」があり、河川整備計画のプランづくりに、住民の意見をこれまでの枠とは違う形で反映させて行こうという決意の表れであることを期待する。
- 資料には湿原は自然林に囲まれているとあるが、ヘリから見ると、それほど豊かな自然環境が維持されているという感じではなく、広葉樹林は密度が薄く、人工林のカラマツ林が目立っていた。このイメージの違いは地域資源評価図に阿寒川流域も含まれていることから、評価範囲の違いによるものと思われる、この辺を厳密に評価すべきである。
- グランドデザインは基本的には良いと思うが、湿原自体は豊かな生態系が存在していても、周辺は必ずしも豊かな森林とは限らないので、表現を一部修正したほうがよい。第6回委員会以降、河川整備計画の策定に向けて、上・中・下流域ごとに、個別に具体的なものを加えていったほうが良い。
- 流域が一体となった川づくりは、漁業ばかりでなく上流の森林の保全も一緒に考えて行くことで非常に良い。
- 自然は子供達の心を育てるので、幼児の段階から自然を体験させたい。農業開発が予想以上に進んでいるので、今後、グランドデザインを踏まえて、関係機関の連携が必要であると思う。
- 川があって、そこに人間が住むという歴史の中で開発が進められてきたが、復元と保全で昔の環境に戻して本来の川の持つ力を取り戻すことは大事なことだと思ふ。農業の家畜糞尿が川に流れ込まないように、今後の河川整備計画で必要な対策が講じられるようにして欲しい。
- 源流部の屈斜路湖を含めて水質が汚染されており、防災面での歴史を経て今の川の姿となっている。今後、自然に戻す仕組みが必要であり、流域が一体となって、きれいな水づくりや河川整備に努める必要がある。
- グランドデザイン案については、基本的に確認が得られた。なお、一部指摘のあった表現上の再整理を行う。

■その他

●8月の台風10号では20年に1度の大雨だったが、釧路湿原の貯留機能が発揮されて河川の水位変化がゆったりとした形であったとともに、排水ポンプ車による内水排除の効果が大きかった。また、9月には震度6弱の十勝沖地震が発生し、一部堤防や護岸が被災したが、10年前の釧路沖地震以後は震災対策を行ってきたため、軽微な被災にとどめることができた。

自然豊かな釧路川を目標に
流域委が整備方針を議論

釧路湿原を流れる釧路川は、次世代に継承していくべき自然環境を有している。流域委員会は、この自然環境を保全・再生させるべく、河川整備計画の策定に向けた議論を進めている。15日、釧路市の釧路地方合同庁舎で開かれた第5回流域委員会（小磯修二委員長）は、河川整備計画の策定に向けた議論を行った。委員会は、河川整備計画の策定に向けた議論を行った。委員会は、河川整備計画の策定に向けた議論を行った。

▲平成15年10月17日(金) 読売新聞

流域整備方針固まる
第5回釧路川流域検討委員会
自然環境保全など基本に

【釧路】釧路川水系の河川整備計画策定を目指す流域委員会は15日、釧路川流域検討委員会（小磯修二委員長）は15日、釧路地方合同庁舎で第5回委員会を開き、河川整備計画の策定に向けた議論を行った。委員会は、河川整備計画の策定に向けた議論を行った。



▲平成15年10月20日(月) 北海道通信

◆釧路川流域委員会 委員◆

◎は委員長
○は副委員長

所 属	職 名	氏 名	出欠
北海道旅客鉄道(株)釧路支社	支 社 長	一條 昌 幸	○
北見工業大学 工学部	教 授	内 島 邦 秀	○
標茶町農業協同組合	組 合 長	門 田 功 一	○
釧路公立大学(地域経済研究センター長)	教 授	小 磯 修 二	◎
(株) 釧 路 新 聞 社	記 者	佐 竹 直 子	○
NPO法人トラストサルン釧路	事 務 局 長	杉 沢 拓 男	○
釧路自然保護協会	会 長	高 山 末 吉	○
財団法人 北海道環境財団	理 事 長	辻 井 達 一	○
釧路水産用水汚濁防止対策協議会	会 長	濱 隆 司	○
北海道標茶高等学校	校 長	古 屋 接 雄	○
釧 路 市	市 長	伊 東 良 孝	○
釧 路 町	町 長	菅 原 澄	○
標 茶 町	町 長	今 西 猛	×
弟 子 屈 町	町 長	徳 永 哲 雄	○
阿 寒 町	町 長	中 島 守 一	×
鶴 居 村	村 長	錠 者 和 三 郎	○

あしたを創る 北の知恵
国土交通省
北海道開発局

釧路開発建設部治水課
〒085-8551 釧路市幸町10丁目3番地
TEL(0154)24-7000
http://www.ks.hkd.mlit.go.jp

北海道釧路土木現業所事業部治水課
〒085-0006 釧路市双葉町6番10号
TEL(0154)23-6111
http://www.pref.hokkaido.jp/kensetu/kn-ksrdg/index.htm